筏道（マップ内 ･････････････ 線）

マップ:B-2

喜多見中央部を縦断する小道。多摩川を下る筏に木材や薪炭をのせ、六郷・羽田方面へ運ぶ筏流しの筏師たちが帰路に利用していた道が「筏道」と呼ばれて残っています。筏流しは江戸時代初期から始まり、幕末から明治時代中頃にかけてが最盛期だったと伝えられています。その後、交通手段等の発達により、大正時代の終わりには筏流しは姿を消しましたが、道の名前として筏師の歴史を伝えています。

登戸道（マップ内 ･････････････ 線）

マップ:B-3

喜多見対岸、現在の川崎市登戸付近から喜多見に入り、現世田谷通りを通って、弦巻付近で大山道へ合流する、江戸につながる重要な道。喜多見の農家はこの道で江戸に農作物を、江戸からは肥料にする下肥を運んでいたと言われています。

稲荷塚古墳

マップ:B-2

墳丘の直径が13m、高さが2.5mの円墳で、現在は公園として整備されています。1959（昭和34）年、1980（昭和55）年の2回の発掘調査によって、周溝や泥岩切石積み石室の存在が確認され、石室からは古墳に葬られた人の身分を示す圭頭大刀や耳環（イヤリング）、土師器等が出土しました。

喜多見陣屋跡

マップ:A-2・3 B-2・3付近が文化財包蔵地

喜多見陣屋は、喜多見勝忠氏の旗本時代から三代・重政が大名となった江戸中期に至る約100年間、現在の喜多見1～4丁目一帯に所在していた屋敷や役所等で、1689（元禄2）年の喜多見氏改易により廃絶されました。遺跡から出土した茶陶等の遺物は、研究上またとない好条件をそなえた貴重な資料となっています。

直売所のご案内

▲世田谷区経済産業部都市農業課 発行

区内には、新鮮・安心な「せたがやそだち」の農産物が購入できる直売所があります。採れたての新鮮な野菜をどうぞ！

交通案内

バス

小田急線成城学園前駅または田園都市線二子玉川駅から
玉07「次大夫堀公園前」下車

小田急線狛江駅から
狛12「喜多見中学校」下車

徒歩

小田急線喜多見駅または成城学園前駅から徒歩約20分

農地保全の取り組み ～農地保全方針～

区内7か所を農地保全重点地区に指定し、地区毎の特性に応じた農地等の保全策（生産緑地の追加指定、宅地化農地を区民農園・苗圃として活用、屋敷林を市民緑地や保存樹林地に指定、保存樹林地の支援拡充等）を講じています。

農地等の保全策によっても保全できない農地については、一定の条件を全て満たす場合、区が用地取得の上、農業振興等拠点として整備します。喜多見では、喜多見農業公園として約1.3haを都市計画決定し、相続等によって農地等を手放さざるを得なくなったときに都度区が取得し、区民参加型農園として整備しています。

農の風景育成地区

都市の貴重な農地を保全し、農のある風景を維持していくために東京都が創設した制度で、比較的まとまった農地や屋敷林が残る、特色のある風景を形成している地区を指定するものです。喜多見4・5丁目地区では、平成25年5月、東京都の地区指定を受け、農業振興や農地保全とともに、樹林の保全、地域の資産や風景の継承、農を活かしたまちづくり等の取り組みを進めています。

慶元寺三重塔の見える風景

出典

『喜多見 世田谷区民俗調査第3次報告』
（世田谷区教育委員会）
『ふるさと世田谷を語る 祖師谷・成城・喜多見』
（世田谷区）
『写真で見る高度成長期の世田谷 1955-64』
（世田谷区立郷土資料館）
『喜多見氏と喜多見流茶道』
（世田谷区立郷土資料館）

↑これは音声コードです

そだてよう みどりの世田谷 33

世田谷みどり33

世田谷・みどりのフィールドミュージアム

喜多見4・5丁目農の風景育成地区 案内マップ

SETAGAYA GREEN FIELD MUSEUM
Information Map

地域全体がみどりの博物館です

「フィールドミュージアム」とは、地域全体（フィールド）をひとつの博物館（ミュージアム）として捉え、学習・体験の場とする考え方です。世田谷のみどりや生きものについての知識が得られ、生物多様性への関心が深められるようにマップや案内板を整備しました。ひとりでのんびり、仲間とわいわい。気分にあわせてお出かけください。

お問い合わせ先

マップ・フィールドミュージアムについて
世田谷区 みどり33推進担当部 みどり政策課
Tel 03-6432-7902 Fax 03-6432-7989

二次元コード

公園緑地の維持管理について
世田谷区 みどり33推進担当部 公園緑地課 砧公園管理事務所
Tel 03-3417-9575 Fax 03-3417-9573

市民緑地・ボランティアについて
（一財）世田谷トラストまちづくり
Tel 03-6379-1620 Fax 03-6379-4233

二次元コード

二次元コード

デジタル版マップ公開中！

世田谷区 | SETAGAYA-KU

平成22（2010）年3月発行 令和8（2026）年3月改訂（第8版）
東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業

地区の紹介

喜多見4・5丁目は世田谷区の中でも特に農地が多く残る地域です。農地の面積は約2.5ha、地区の約5.0%が農地として利用され、現在約20軒の農家が様々な農産物を生産しています。主な生産作物は ダイコン、ジャガイモ、コマツナ、トマト、キャベツ、キュウリ、サトイモ、ネギ、ナス、ハクサイ等です。その多くは農家の庭先直売所や農協の共同直売所で販売されています。

地区のかつての農業～350年前から続く喜多見の農業の歴史～

江戸時代はこの地の生業はほとんどが農業でした。米・麦等穀物の他、大根、瓜、葉野菜等を生産し、明治の頃からは養蚕を兼業する農家が増え、生産も米穀類の他、大豆・小豆・豌豆・甘藷（サツマイモ）等多種にわたっていました。

稲作

かつては野川や慶元寺の南側を流れる清水川の周辺には水田が広がっていました。このあたりの田んぼは二毛作ができるような土質で、水はけが良く、稲作刈り取り後、畑としての裏作が可能な恵まれた土地でした。現在は次大夫堀公園に水田が残っています。

養蚕・たけのこ・柿による現金収入

農家が現金収入を得る重要な仕事として、1940（昭和15）年頃まではこのあたりでも養蚕を行っていました。また、喜多見には竹林が多く、一家で一反（約992㎡）くらいの竹藪を持っていました。さらに、柿の産地としても有名で、白く粉のふいた禅寺丸柿は甘みが強く、神田の市場では並の柿よりも一割高で売れたそうです。

茶

道路と畑の間に茶の木を植える農家が多くいました。多くは自家用に製茶を行う程度でしたが、養蚕をやめた後、製茶業に転じてお茶を揉み、出荷する農家もいました。

農産物流通

市場に出荷する農産物は事情の許す限り、都心に近い神田・京橋・青山方面へ持っていっていました。夜11時頃に出発して、翌朝市場に到着するのが喜多見の人々の常識でした。1921（大正10）年頃からは牛車を使って市場へ運びましたが、市場が遠く、かつ、夜中はちょうちんの明かり、帰りは下肥を運んでくるため、砂利道や坂で難儀したそうです。

喜多見4−20付近より東方を見る（1959（昭和34）年）

案内マップ Guide map

世田谷・みどりのフィールドミュージアム
喜多見4・5丁目 農の風景育成地区

1 喜多見農業公園
マップ:B-2・3

喜多見地区の『農』体験ができる公園です。農業体験を通じ、喜多見地区の『農』を後世に伝えています。

2 次大夫堀公園
マップ:B-1・2 C-2

次大夫堀は江戸の初期、小泉次大夫の指導で開削された農業用水です。野川から取水して、昔ながらのきれいな流れを復元し、その流れに沿って当時の古民家や水田を配置しています。

園内の民家園では江戸時代後期から明治時代初期にかけての農村風景を再現しています。農村に伝わる行事等も行っており、昔ながらの生活や風習を体験することができます。

また、園内の里山農園は誰もが一緒に楽しめる農園で、食育や環境教育等のプログラムを実施しています。

民家園休園日:毎週月曜日(月曜日が祝日または休日にあたるときは、その翌平日が休園日)、年末年始(12月28日～31日、1月2日～4日)

▲次大夫堀公園(喜多見5-26)付近より北西を見る(1961(昭和36)年)

3 喜多見5-21遊び場
マップ:B-2

「喜多見五丁目竹山市民緑地」として保全、公開されてきたモウソウチクの林です。現在は区の公園緑地として、ボランティアの参加による管理・運営がなされており、竹の間引きや草刈り、園路づくり等の管理作業のほか、竹細工づくり等のイベントへの協力等が行われています。

【開園時間】4月～10月 9:00～17:00/11月～3月 9:00～16:00
【休 園 日】年末年始(12月29日～1月3日)

4 滝下橋緑道
マップ:A-1

延長306m。かつて野川の流路だった旧六郷用水堀を緑道として整備しています。六郷用水の一部として使われていた箇所であり、かつて周辺は水田でした。

5 喜多見緑道
マップ:A-3

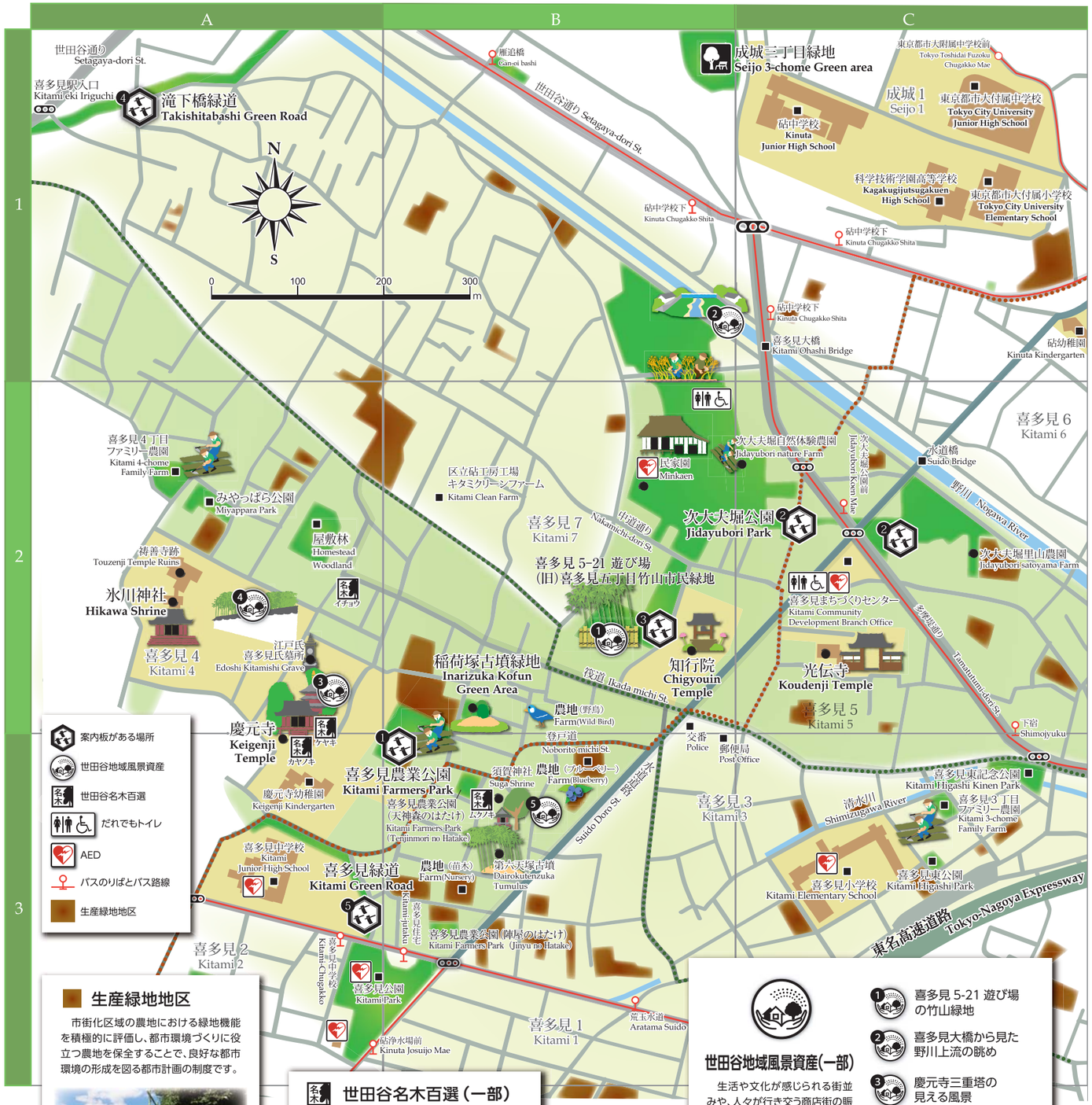
延長356m。農業用水として利用されていた清水川の下流部分を整備した緑道です。清水川は農業用水として使われていたため、水路は縦横に蛇行し、小さな支流跡も数多く残っていますが、現在では下流の一部を除いてほとんどが暗渠になっています。

上記 1～5 の場所には案内板があります。

ロゴマークについて

喜多見4・5丁目の農業・農地を活かしたまちづくりのシンボルマークです。地域住民や農業者の方々によって検討され、地区の様々な文化を繋ぐため、また、魅力的な資源を地区内外の方々に知ってもらうためのシンボルとして誕生しました。

鍬に見立てた喜多見の「喜」という字の旧字体「𡚬」と、喜多見氏の家紋である「亀甲」を組み合わせたデザインになっています。



生産緑地地区

市街化区域の農地における緑地機能を積極的に評価し、都市環境づくりに役立つ農地を保全することで、良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度です。

世田谷名木百選(一部)

区民等によって構成された名木百選選定委員会において、区内で親しまれている樹木を名木百選として1987(昭和62)年に選定しました。30年以上を経て名木の状況が変わったことから、新規名木を公募し、2020(令和2)年に既存の名木と合わせて150本を名木として選定・再選定しました。

世田谷地域風景資産(一部)

生活や文化が感じられる街並みや、人々が行き交う商店街の賑わい等、そこに暮らす人々に共有され、みんなが誇りと愛着を持っている大切な風景を「守り、育て、つくる」ことを目的とし、世田谷区風景づくり条例に基づき選定されたものです。

1. 喜多見5-21遊び場の竹山緑地
2. 喜多見大橋から見た野川上流の眺め
3. 慶元寺三重塔の見える風景
4. 喜多見・歴史の道～慶元寺・氷川神社界隈
5. 須賀神社のムクノキ

氷川神社
マップ:A-2

創建は古く、740(天平12)年に素盞嗚尊を奉祀したことに始まると伝えられています。1570(永禄13)年にはこの地の領主江戸刑部頼忠により再興されました。その子孫喜多見勝忠が神領、五石二斗を寄進したほか、社前の二の鳥居は1654(承応3)年に喜多見重恒、重勝兄弟によって建立寄進される等、江戸氏、喜多見氏とゆかりの深い神社です。

慶元寺
マップ:A-2

1186(文治2)年、江戸太郎重長が今の皇居紅葉山辺に開基した江戸氏の氏寺で、室町時代の中頃、江戸氏の木田見(今の喜多見)移居に伴い氏寺もこの地に移りました。本堂は1716(享保元)年に再建されたもので、現存する区内寺院の本堂では最古の建造物であると言われています。墓地には江戸氏、喜多見氏の墓があり、境内には喜多見古墳群中の4墓の古墳が現存しています。

須賀神社
マップ:B-3

承応年間(1652～1654年)に喜多見久大夫重勝が喜多見館内の庭園に勧請したとされます。湯花神事は社殿前に大釜を据えて湯を沸かし、笹の葉で湯を周りに振りかける行事で、この湯がかかると一年間病気をしないといわれています。区の名木百選に選ばれているご神木のムクノキは、鳥か獣が木の洞にすんでいたため、昔は「鳴く木」として有名だったそうです。

知行院
マップ:B-2

本尊は薬師如来で、延暦寺の末寺として、文明年間(1469～1487年)頃の草創で、1588(天正16)年頼存法印が中興開山したと言われています。喜多見若狭守勝忠が館の鬼門除けの祈願所として不動明王と閻魔大王をあわせ祀り、除地を寄進しました。

光伝寺
マップ:C-2

寺を創建した西誉上人方阿玉公和尚から約80年くだった1649(慶安2)年、七世誉上人万休竜長和尚の代に、三代将軍家光より七石二斗余の御朱印をうけ、その御朱印状9通が寺宝として保存されています。

喜多見4・5丁目の農風景

農地は農産物を生産する場としてだけではなく、潤いのある景観や災害時の避難空間等、様々な機能を持っています。

野鳥が集まる農地
マップ:B-2

ブルーベリー畑
マップ:B-3